

平成28年度第1四半期における運用状況等

(平成28年4月～6月)

独立行政法人農業者年金基金は、年金資産の安全かつ効率的な運用を行っており、法令に基づき策定しました「独立行政法人農業者年金基金中期計画」において、四半期ごとに運用に関する情報を、本資料をもってホームページで公表することとしております。

当基金が行っています年金資産の運用については、金融・経済情勢等の運用環境の影響により、短期的には、運用成績がプラスになることやマイナスになることがありますが、長期的な運用により安定した運用収益を上げることが期待されます。

今後とも、安全かつ効率的な運用を徹底して参りたいと思っておりますので、皆様の御理解を賜りますようお願い申し上げます。

【参考】

独立行政法人農業者年金基金中期計画（平成25年3月29日認可）－抜粋－

2 年金資産の安全かつ効率的な運用

(4) 年金資産の構成割合、運用成績等については、四半期ごとにホームページで情報を公表するとともに、加入者に対して、毎年6月末日までにその前年度末現在で評価した個々の加入者に係る運用結果を通知する。

目 次

	頁
1. 平成28年度第1四半期（平成28年4月～6月）における運用環境について	1
2. 平成28年度第1四半期（平成28年4月～6月）におけるポートフォリオ別の運用状況 . . .	2
3. ベンチマーク・インデックスの推移	4
（参考） 用語の説明	5

1. 平成28年度第1四半期（平成28年4月～6月）における運用環境について

（4月）

国内外株式のうち国内株式は、1日発表の日銀短観が弱い内容だったこと等を受け下落して始まり、円高が進行したこと等を背景に更に下落しました。その後、原油価格の上昇等を背景に上昇に転じましたが、28日の日銀金融政策決定会合において追加金融緩和が見送られたことへの失望感から下落し、先月末よりやや弱い水準で終わりました。一方、外国株式は、米企業の良好な決算発表等を背景に上昇する場面が見られましたが、欧米の経済指標が市場予想を下回ったこと等を背景に下落しました。国内債券の10年国債利回りは、堅調な需給環境等を背景に低下し、 $\Delta 0.09\%$ となりました。外国債券の米国10年国債利回りは、原油価格の上昇等を背景に上昇し 1.83% となりました。為替は、日銀金融政策決定会合において追加金融緩和が見送られたこと等を背景に円高が進行し、対ドルは107円、対ユーロは122円55銭となりました。

（5月）

国内外株式は、4月の日銀金融政策決定会合において追加金融緩和が見送られたことや、米経済指標が市場予想を下回ったこと等から下落して始まりました。その後、原油価格の上昇や欧米株式の上昇等を背景に上昇基調で推移しました。月末にかけて、消費税増税の見送り観測が強まったことや、米国の1-3月期GDPが速報値より上方修正されたこと等を背景に更に上昇しました。国内債券の10年国債利回りは、堅調な需給環境等を背景に低下し、 $\Delta 0.12\%$ となりました。外国債券の米国10年国債利回りは、米連邦公開市場委員会(FOMC)の議事録の公表を受けて早期利上げ観測が強まったこと等を背景に上昇したものの、前月末と比べほぼ横ばいの 1.85% となりました。為替は、米国での早期利上げ観測が強まったことや、ギリシャへの追加金融支援がEU圏財務相会合において承認されたこと等を背景に円安が進行し、対ドルは110円90銭、対ユーロは123円46銭となりました。

（6月）

国内外株式のうち国内株式は、1日に消費税増税の延期が表明され、材料出尽くし感から下落して始まり、16日の日銀金融政策決定会合において追加金融緩和が見送られたこと等を背景に、更に下落しました。その後、国内外株式は、英国のEU離脱に関する世論調査で、残留派が優勢と伝わり買い戻し局面が見られた中、現地23日に実施された英国の国民投票で英国のEU離脱が決まり（Brexitショック）、リスク回避姿勢が鮮明になったこと等を背景に大きく下落しました。月末にかけては、株式の買い戻しが見られました。国内債券の10年国債利回りは、英国のEU離脱によるリスク回避姿勢の高まり等を背景に低下し、 $\Delta 0.23\%$ となりました。外国債券の米国10年国債利回りも同様に低下し、 1.47% となりました。為替は、日銀の追加金融緩和の見送りに加え、英国のEU離脱によるリスク回避姿勢の高まり等を背景に円高が進行し、対ドルでは102円59銭、対ユーロは113円97銭となりました。

2. 平成28年度第1四半期(平成28年4月～6月)におけるポートフォリオ別の運用状況

① 被保険者ポートフォリオ

平成28年度第1四半期(平成28年4月～6月)の被保険者及び待期者に係る資産の運用状況は、次表のとおり、平成28年6月末時価総額は2,095億38百万円となり、第1四半期の総合収益は△27億66百万円となりました。また、修正総合利回りは△1.30%となりました。

(単位:百万円、%)

資 産	平成27年度末 時価総額	平成28年6月末 時価総額	時価総額構成割合	第1四半期 の総合収益	(参考) 修正総合利回り
国内債券	146,212	148,224	70.7	2,143	1.46
自家運用	65,755	65,982	31.5	148	0.22
外部運用	80,457	82,241	39.2	1,995	2.48
国内株式	27,146	25,547	12.2	-1,960	-7.22
外国債券	10,876	9,924	4.7	-875	-8.05
外国株式	27,124	25,527	12.2	-2,041	-7.53
短期資産	1,062	317	0.2	-33	—
合 計	212,420	209,538	100.0	-2,766	-1.30

- (注)
- 国内債券のうち自家運用(満期保有目的)については、償却原価法(定額法)を適用しています。
 - 平成27年度末時価総額は、平成27年度決算整理後の額となっています。なお、短期資産の1,062百万円は、決算整理前の額1,053百万円に被保険者危険準備金ポートフォリオからの繰入額10百万円を加算した額です。
 - 平成28年6月末時価総額(合計)は、平成27年度末時価総額(合計)212,420百万円から、第1四半期の総合収益の△2,766百万円と、受給権者ポートフォリオへの繰入額等△116百万円とを合わせた合計2,882百万円を減算した額、209,538百万円となりました。
 - 短期資産の修正総合利回りの数値は、自家運用分については0.0002%となりますが、外部運用分については保管・管理手数料等が含まれているため、表示していません。なお、保管・管理手数料等を整理する前の外部運用分の利回りは0.03%となります。
 - 単位未満を四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。(以下同じ。)

② 受給権者ポートフォリオ

平成28年度第1四半期(平成28年4月～6月)の受給権者に係る資産状況は、次表のとおりとなっております。年金給付等の原資は確保されています。

(単位:百万円)

資 産	平成27年度末 時価総額	平成28年6月末 時価総額
国内債券	52,469	55,000
短期資産	963	2,999
合 計	53,431	57,999

(注) 1. 平成27年度末時価総額は、平成27年度決算整理後の額となっております。なお、短期資産の963百万円は、決算整理前の額847百万円に、受給権者危険準備金ポートフォリオからの繰入額115百万円を加算した額です。

2. 平成28年6月末時価総額の短期資産のうち1,845百万円は、マイナス利回りの国内債券を購入するのを回避するため、暫時短期資産として取り置いているものです。

③ 被保険者危険準備金ポートフォリオ及び受給権者危険準備金ポートフォリオ

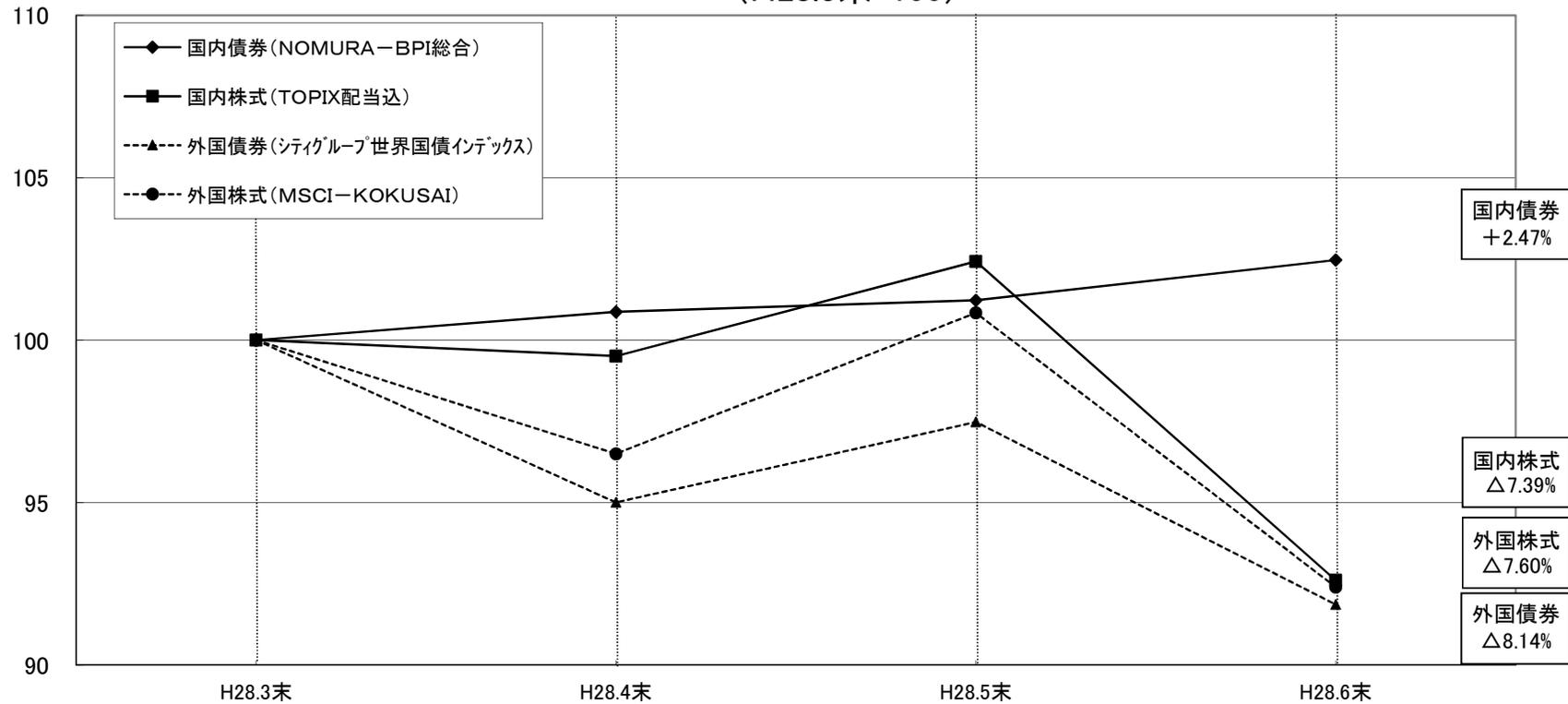
平成28年度第1四半期(平成28年4月～6月)の危険準備金に係る資産状況は、次表のとおりとなっています。

(単位:百万円)

ポートフォリオ	区 分	資 産	平成27年度末 時価総額	平成28年6月末 時価総額
被保険者危険準備金 ポートフォリオ	付利準備金	短期資産	5,447	5,447
	調整準備金	短期資産	2,646	2,609
	合 計		8,092	8,056
受給権者危険準備金 ポートフォリオ	調整準備金	短期資産	1,692	1,766

(注) 平成27年度末時価総額は、平成27年度決算整理後の額となっております。なお、被保険者危険準備金ポートフォリオの短期資産の合計8,092百万円は、決算整理前の合計額8,102百万円に、被保険者ポートフォリオへの繰入額10百万円を減算した額です。また、受給権者危険準備金ポートフォリオの短期資産の1,692百万円は、決算整理前の額1,807百万円に受給権者ポートフォリオへの繰入額115百万円を減算した額です。

3. ベンチマーク・インデックスの推移 (H28.3末=100)



(参考)市場インデックス

区分	平成28年3月末	平成28年4月末	平成28年5月末	平成28年6月末
国内債券 (新発10年国債利回り)	-0.050 %	-0.085 %	-0.120 %	-0.234 %
(NOMURA-BPI総合)	382.913 ポイント	386.253 ポイント	387.599 ポイント	392.355 ポイント
国内株式 (日経225)	16,758.67 円	16,666.05 円	17,234.98 円	15,575.92 円
(TOPIX配当込)	1,898.02 ポイント	1,888.68 ポイント	1,944.06 ポイント	1,757.69 ポイント
外国債券 (米国10年国債利回り)	1.770 %	1.834 %	1.847 %	1.471 %
(独10年国債利回り)	0.153 %	0.271 %	0.139 %	-0.130 %
(シティグループ世界国債インデックス)	452.320 ポイント	429.710 ポイント	440.910 ポイント	415.504 ポイント
外国株式 (NYダウ)	17,685.09 ドル	17,773.64 ドル	17,787.20 ドル	17,929.99 ドル
(独DAX指数)	9,965.51 ポイント	10,038.97 ポイント	10,262.74 ポイント	9,680.09 ポイント
(MSCI-KOKUSAI)	2,342.598 ポイント	2,260.593 ポイント	2,362.283 ポイント	2,164.557 ポイント
為替レート (対ドル)	112.40 円	107.00 円	110.90 円	102.59 円
(対ユーロ)	128.08 円	122.55 円	123.46 円	113.97 円

用語の説明

○ ポートフォリオ

資産を運用する際の保有資産の組合せのこと。また、組み合わされた運用資産全体を指すこともある(同義語 ファンド)。

○ 総合収益

利息、配当金や売買損益といった実現損益だけではなく、評価損益や未収収益を加味した収益のこと。

○ 修正総合利回り

総合収益を、運用元本に時価の概念を加味した残高で割って算出した収益率のこと。運用成績の開示に広く用いられている。

修正総合利回り = (総合収益) ÷ (運用元本平均残高 + 前期末評価損益 + 前期末未収収益)

○ ベンチマーク・インデックス

各資産の収益率を評価する基準となる指標のこと。

以下は、被保険者ポートフォリオにおけるそれぞれの資産のベンチマーク・インデックスとして、当基金が採用しているものである。

* NOMURA-BPI総合

野村証券金融工学研究センターが作成している国内債券市場の指標。国内で発行された残存1年以上の固定利付円建債(A格相当以上)から構成される。国内債券市場の代表的な指標である。

* TOPIX(配当込)

東京証券取引所が作成している国内株式市場の指標。東証一部全上場銘柄から構成される。国内株式市場の代表的な指標である。

* シティグループ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし、円ベース)

シティグループ・グローバル・マーケット・インクが作成している外国債券市場の指標。主要各国(除く日本)が発行する国債から構成される。外国債券市場の代表的な指標である。

* MSCI-KOKUSAI(源泉税控除前、配当再投資、円換算)

MSCI Incが作成している外国株式市場の指標。主要各国(除く日本)の証券取引所上場銘柄から構成される。外国株式市場の代表的な指標である。